

2021年

10・11月合併号

農林水産省  
北海道農政事務所  
北見地域拠点

ず～むあっぴ☆

オホーツク

## ＜農福連携＞ 障がい者がスタッフとして活躍中！ 野菜の水耕栽培とトラフグ養殖の様子をご紹介します！

### 取組① 植物工場 夢ふうせん(紋別市)

「植物工場夢ふうせん」は、紋別市が平成29年に設置した福祉就労施設を本年4月、市内に介護事業所を持つ「株式会社エムリンクオホーツク」が前管理者から事業を引き継ぎ、ほうれん草、小松菜、レタスを水耕栽培しています。

播種から出荷まで、ほぼ全ての作業に障がい者が携わり(現在18名)、オホーツク管内のスーパーや市内の給食センターへ出荷しています。

同市は、オホーツク海に面し、冷涼な気候のもと漁業と酪農が盛んですが、大型ビニールハウスで、通年栽培、出荷が可能です。



水耕栽培の小松菜とレタス

水耕栽培のメリットは、ハウス内で栽培するため、気候に左右されず、北海道でも一年中栽培できることです。また、一から土作りをする必要がなく、病害虫の被害も少ないことから無農薬での栽培も可能です。冬期は雪と氷に閉ざされる北海道において、新鮮な葉物野菜を身近なところから購入できることは、消費者や給食を楽しむにしている子供達にとって大変ありがたいことです。

「植物工場夢ふうせん」では、18名の障がい者が働いています。私がお邪魔した際も、「こんにちは!」と大きな声であいさつをしていただき、いきいきと作業を行っている様子を拝見することができました。

管理責任者の中西さんによると、作業は障がい者個々の特性を十分に理解したうえで、本人が興味を持った作業を優先して割り振っているということで、できないことを無理に習得してもらうことは避けているそうです。

収穫した野菜が商品として店頭で陳列されることで、自分のがんばりが目に見える形となり、成果を確認できることでさらにやりがいを感じるようです。今回の取材を通し、農業の魅力を再確認できた一日でした。



包装作業の様子

根がついているため  
鮮度が長持ち及川代表(左)と  
中西施設管理責任者

取組②

# 温泉水を利用したトラフグの陸上養殖に挑戦！ (北見市)



【入浴専用施設となった「滝の湯」内の養殖用水槽で泳ぐトラフグ】

オホーツク管内を中心に障がい者就労支援サービスを提供する「株式会社エムリンク夢ケア」は、令和2年度農山漁村振興交付金（農福連携支援事業）の採択を受け、北見市留辺蘂町温根湯地区で、温泉水を活用したトラフグの陸上養殖に取り組んでいます。

「エムリンク夢ケア」の関連企業で、温根湯地区で温泉旅館を営んでいる企業「夢風泉」の代表工藤平史さんを取組内容について、お話を聞きました。

本来なら北海道より暖かい海域に生育しているトラフグを山の中の温泉街で養殖しようと考えたのは、温泉水を活用することで水温管理に必要な燃料費を節減でき、養殖なら通年で出荷できること、そして障がいのある方に就労の場を提供できる等の理由があること。また、かつての賑わいがなくなった地域を北海道ではなじみのうすいトラフグをブランド化することにより、活性化できるのではないかと感じたそうです。

150匹の稚魚を5月から受入れ、10月には10倍の大きさに成長し、成長速度は温泉水の効果か他の養殖場より速いそうで、障がい者の方々（3名体制で計16名）が、給餌、清掃作業に励んでいます。

将来的には規模を拡大し事業として成功させ、障がい者に働く場を提供することに喜びを感じながら、さらに地域の活性化に一役買うという目標を達成すべく工藤代表の挑戦は続きます。



【工藤代表】

## 「みどりの食料システム戦略」の説明動画を掲載しました

農林水産省では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

動画では、枝元事務次官が戦略の背景や策定に向けた思いを語っているほか、戦略の総論及び8つの項目について、それぞれ担当の幹部が説明をしています。

